



国際交流員と共につくる佐賀の多文化共生社会 ～新型コロナウイルス感染拡大防止に係る外国人住民への対応を通して～

佐賀県地域交流部国際課

佐賀県国際課には3人（韓国、オランダ、ベトナム）の国際交流員（CIR）が在籍しており、県内の国際化、多文化共生の地域づくりに重要な役割を担っています。

CIR と連携し迅速に情報提供

3月13日の夜、佐賀県で初の新型コロナウイルス感染者確認のニュースが飛び込んできました。20代の男性が新型コロナウイルスに感染し、濃厚接触者もいるとのこと。一時休校措置を取っていた県内の学校が、翌週の16日から再開しようとしていた矢先の出来事でした。

佐賀県と佐賀県国際交流協会（SPIRA）は、災害時に「災害多言語支援センター」の設置運営を協同で行う協定を締結しており、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る外国人住民への情報提供についても、災害時に準じてSPIRAの理事長の指揮のもと、県国際課多文化共生担当職員とCIR3人が連携しながらできるだけ速やかに行いました。

佐賀県では、国際課多文化共生担当とSPIRAが同じ執務室で働いており、日頃から事業の進捗状況や情報共有を密に行い、CIRも含め強固な関係性の構築に努めているため、今回の対応もスムーズに連携して行うことができました。



県国際課多文化共生担当（左側）とSPIRA（右側）の執務室

確かな情報を外国人目線で届ける

新型コロナウイルス感染拡大防止に係る外国人住民への情報提供については、県内の状況や知事の記者会見の内容を中心に、CIRとSPIRAの外国人職員が連携しながら翻訳に取り組んでいます。作業は、土日や夜遅くまで行う時もあり、その際は平時に職員間の情報共有を行うための「LINE」を使って、連携しながら進めています。

情報を多言語で発信する時に、私たちが気を付けなければいけないことは、私たち日本人と外国人との間にあるミスコミュニケーションをいかに埋めるかということです。CIRも自ら「外国人住民」という視点で、「この意味は●●ですか?」とか「この文章は○○語圏の人には◎◎を付け加えた方がいいと思いますので、そのように翻訳します」など、翻訳する多言語人材同士がお互いのやりとりを共有し、情報を受け取る外国人住民を思い浮かべながら丁寧に行っています。

特別定額給付金申請方法の 動画作成に挑戦

4月20日、政府より、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急経済対策として一律10万円を支給する「特別定額給付金」が発表され、一定の条件を満たす外国人住民も支援の対象となりました。総務省より複雑な多くの情報が発信される中で、私たち職員が感じたことは「外国人住民にとって申請は相当難しいのではないか」ということでした。そこで、給付金の申請方法について紹介する動画を多言語で作成することにしました。

まず、県内20市町の情報をもとに「さが多文化共生センター」（外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策で設置された相談窓口の名称）の相談員が給付金の申請方法の資料を作成し、SPIRAの外国人職員と県国際

課の CIR と共有しました。そして意見を出し合い、スクリプトを構成し、それぞれが翻訳、収録、動画編集・作成を行いました。

現在作成された動画は、SPIRA のホームページに掲載され多くの方にシェアされています。



動画撮影の確認をする CIR と SPIRA の職員



給付金の申請動画編集作業を終えた CIR と SPIRA 職員

改めて感じる「平時」の体制づくり

外国人住民へ必要な情報を届けることは、簡単なようでいつも難しさを感じます。佐賀県のように、外国人住民の人口比率が1%未満で、財政規模やマンパワーが足りない市町が大半である自治体では、「市町で多文化共生の地域づくりに取り組んで多言語で情報配信してください」というやり方では限界があります。

そのため、県や市町の制度的な取り組みの必要性はもちろんですが、合わせて、地域で同じ「生活者」として暮らす県民の横のつながりも強くする必要があり、日頃から地域に出向いて他分野の方々と関わりながら、多文化共生の地域づくりに取り組んでいます。

佐賀県の多文化共生社会

佐賀県は年々在住外国人の数が増加し、国際的分野だけでなく、全ての行政施策において「日本人視点」で考えても、多様化する地域に対応することは難しくなっており、地域での取り組みには CIR が欠かせない存在です。

地域への啓発のために自分の体験談を住民の方に語ったり、やさしい日本語の出前講座を実施したり、地域と積極的に交流しています。ある時は救急患者役として、ある時は外国人観光客役として、またある時は災害時の避難者役として多文化共生やインバウンド事業に独自の視点とアイデアを吹き込んでくれています。外国人留学生を対象とした防災訓練でも、通訳や言語サポーターとして関わり、参加した留学生からは「将来は自分も CIR になって地域に貢献したい」と感想をもらうなど、留学生のロールモデルにもなっています。

CIR が地域と交流を重ね、佐賀県に愛着を持ってもらい、共に成長し、刺激しあえる仲間になることが、佐賀県の多文化共生社会の推進につながっていくと感じています。これからも共に取り組み、共に成長する佐賀県でありたいと思います。



消防学校で母国と日本の救急体制の違いについて話す CIR



出前講座でやさしい日本語について話す CIR